

## 第43回まちcomiリサーチ 『主婦の職場復帰について』

ドリームエリア株式会社は、無料不審者情報配信ツール『まちcomiメール』を利用している保護者の方々を対象に、『主婦の職場復帰について』のアンケートを実施いたしました。

### <調査概要>

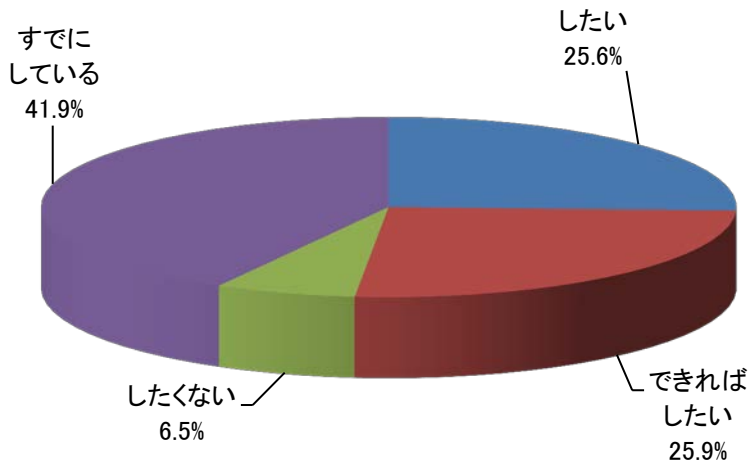
調査期間	2013年8月8日(木)～2013年8月11日(日)
調査方法	携帯サイト上のアンケートフォームにて回答
調査対象	『まちcomiメール』を利用した不審者情報を携帯で受信している保護者
調査対象数	1,076,478名
有効回答数	13,805件
寄付金額	今回13,805円 寄付先：認定NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク オレンジリボン事務局

### <質問項目>

1	職場復帰したいと思いますか？
2	職場復帰する際、スキル面で不安なことは何ですか？(いくつでも)
3	職場実習に対するイメージを教えてください。(いくつでも)
4	どんなサポートがあれば職場実習したいですか？(いくつでも)
5	職場実習を経て、復帰する制度を利用したいですか？
6	前問で選択した回答の理由を教えてください。(自由回答)
7	この制度を利用するには登録が必要になりますが、どんな登録方法がいいですか？
8	お子さまの年齢を教えてください。(いくつでも)
9	あなたの年齢を教えてください。
10	お住まいの地域を教えてください。

### 質問1: 職場復帰したいと思えますか？

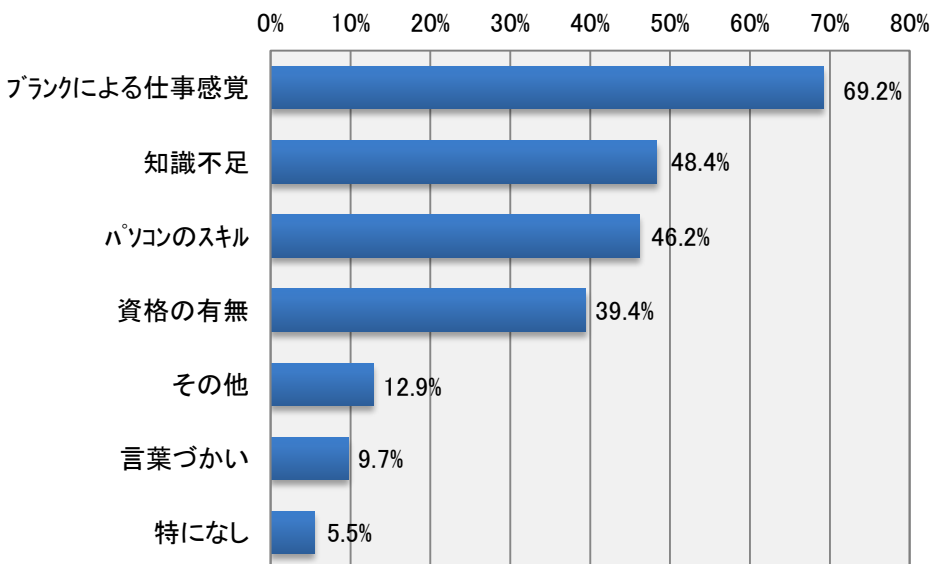
— 職場復帰されている方も含め、職場復帰に前向きな方が9割以上となりました



既に職場復帰されている方も含め、9割以上の方が職場復帰に前向きと見受けられます。しかし、前回のリサーチ結果では、仕事と子育ての両立について不安を持たれている方も多くいらっしゃいました。受け入れる企業の環境や周囲の支えなど、条件が合うことが職場復帰の第一歩となるようです。

### 質問2: 職場復帰する際、スキル面で不安なことは何ですか？(いくつでも)

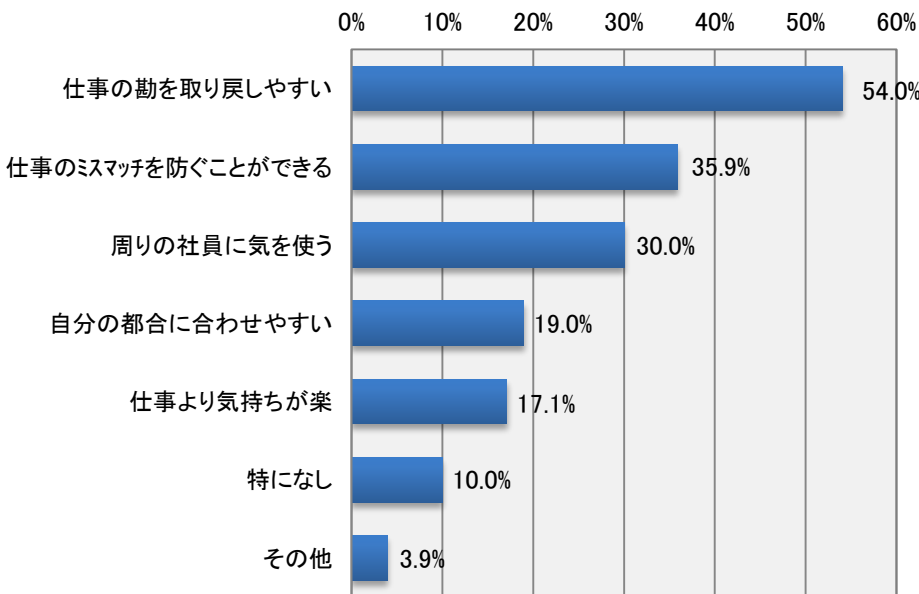
— ブランク、知識不足、スキルなど、職場復帰に向けて不安に思われる要素は多くあります



約7割の方が「ブランクによる仕事感覚」に最も不安を感じているようです。質問5の回答結果より、職場実習を経て復帰することに多くの方が興味を持っていらっしゃいます。不安を払拭して職場復帰するためにも、職場実習制度を利用することは効果的だと考えられます。

### 質問3: 職場実習に対してのイメージを教えてください。(いくつでも)

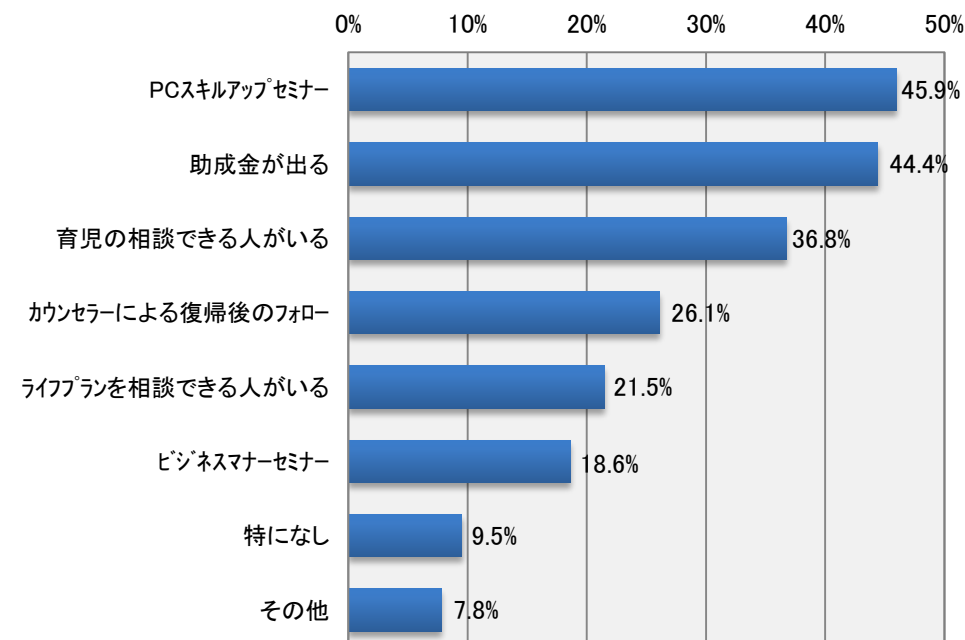
— 復帰するための準備期間になるなど肯定的なイメージを持たれる方が多くいらっしゃいました



半数以上の方が、「仕事の感覚を取り戻しやすい」と回答されました。やはり、職場実習は“復帰するための準備期間になる”と肯定的なイメージがあるようです。また、実際に働くことで、仕事の内容や家庭との両立が可能かどうか判断できると考えられている方もおり、復帰を悩まれている方には、一歩踏み出してみるいい機会になるのかもしれませんが。

### 質問4: どんなサポートがあれば職場実習したいですか？(いくつでも)

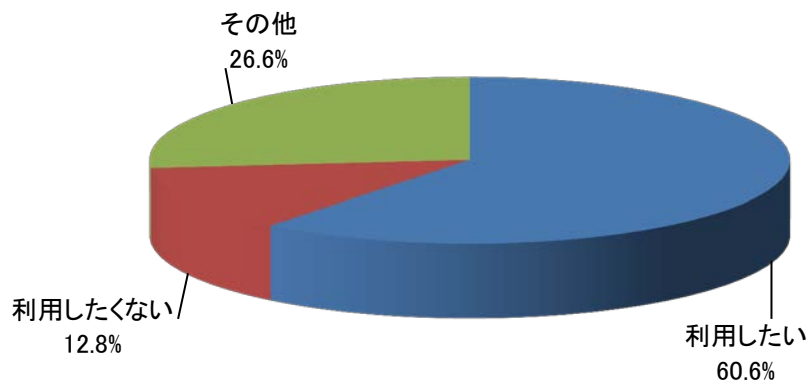
— スキルを身につけ、即戦力として働きたいという意欲的な回答が多く集まりました



「PCスキルアップセミナー」と回答された方が約46%と最も多く、すぐに即戦力となって働くという意欲的な方が多いのではないかと予想されます。次いで多いのが「助成金」となっており、家計を支える主婦にとって、必要不可欠なものであると考えられます。また、育児やライフプランなど日頃の悩みを気軽に相談できる環境があることも、職場復帰の上では必要なものであると考えられます。

質問5: 職場実習を経て、復帰する制度を利用したいですか？

— 「利用したい」との回答が多く、職場復帰する際の有効な制度と評価されています



約6割の方が「利用したい」と回答しており、職場復帰する方のニーズに合っていることが分かります。

後の自由回答では、“いきなり働くのは不安”と回答された方も多く、この制度をご利用されるには良い機会かもしれません。

## 質問6: 前問で選択した回答の理由を教えてください。(自由回答)

多くのご意見をいただきました。 ※以下、一部抜粋したものをご紹介いたします。 回答数: 6,234件

### <総評>

前述の回答結果より、職場実習を経て復帰したいと思われている方が6割近くいらっしゃり、その理由として多かったのは、【ブランクが一番不安なので、即戦力になるためにも職場実習は利用したい】といった職場復帰制度を使ってブランクを埋めたいというものでした。職場から長い間離れているため、職場の雰囲気や環境、仕事の進め方の違いなどに不安を感じている方が多いようです。

また、【パソコンのスキルは使っていないと落ちると思うので】といったパソコンなど、IT技術の進化についていけるのか、職場に戻っても以前のように働けるのかなど、自分自身に対する不安も少なくはないようです。そのため、職場復帰制度を使い、自分自身のスキルアップに繋げ、スキルを磨いた上で復帰したいなど、意欲的なご意見も多く見受けられました。

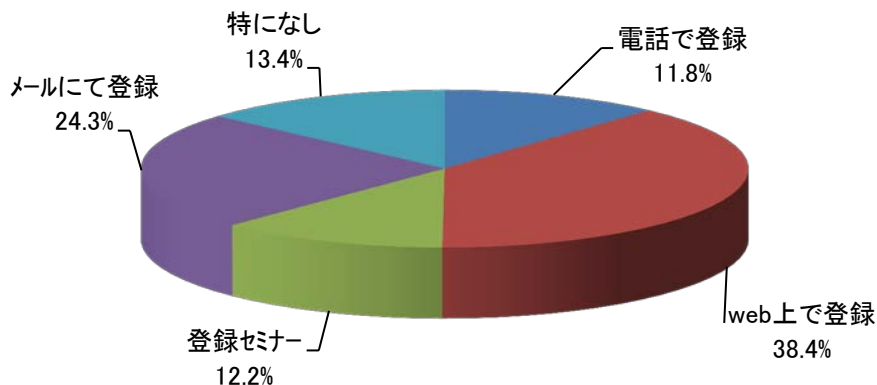
ブランクを埋める、スキルアップを行う、企業とのミスマッチを判断する、制度を利用する目的は様々ですが、職場復帰するための第一歩として、この制度を利用してみるのはいかがでしょうか。

### <意見抜粋>

- ブランクが長いので今のまま仕事復帰するには不安が多いため。
- ブランクが一番不安なので、即戦力になるためにも職場実習は利用したい。
- ブランクが長いので、自分でもできそうだという安心感がもてる。
- 勤を取り戻してから、復帰したほうが、精神的に楽になりそうだから。
- 感覚を取り戻すための準備として。
- そういう制度があるならば素直に利用してみたいし、素直に職場復帰がしやすくなると思うので。
- 気持ちに余裕がでて、余計な心配をしなくてすむので。
- 仕事の雰囲気がつかめる。
- スキルよりもその会社の人間関係が気になるので、自分がやっていけるか試す事ができる。
- スキルアップできるので不安が少なくなっていると思います。
- パソコンのスキルは使っていないと落ちると思うので。
- 実際の仕事がわかるメリットがあると思う。
- どんな仕事も、外側から見てると、やるのは違うから。
- ミスマッチを事前に回避しやすくなるから。

**質問7:この制度を利用するには登録が必要になりますが、どんな登録方法がいいですか?**

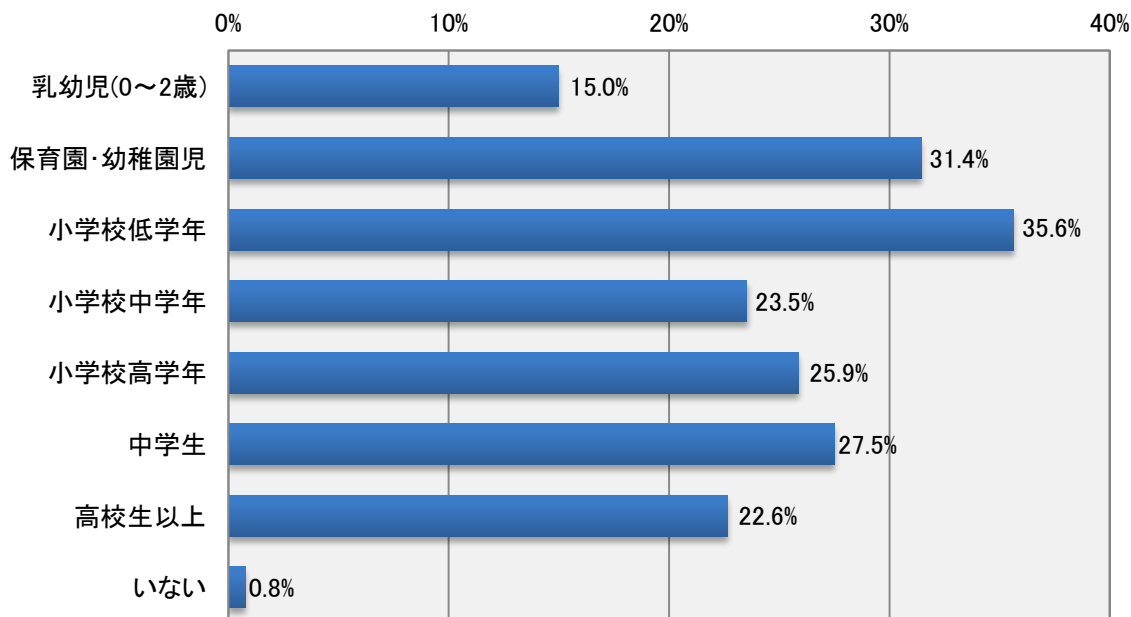
— webやメールなど、手軽に登録できる方法が人気のようです



過半数以上が、webやメールで登録したいと回答されています。家事や子育てに忙しい主婦の皆様だからこそ、時間に制約されず、どこにいても手軽に登録できる方法が人気のようです。

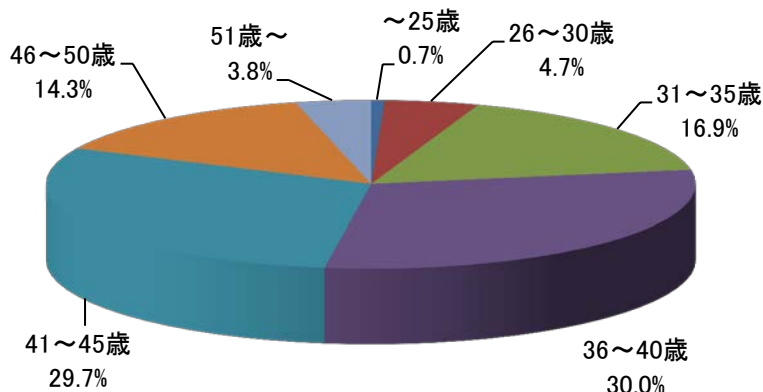
**質問8:お子さまの年齢を教えてください。(いくつでも)**

回答して頂いた方のうち、8割強が小学生のお子様をお持ちの保護者様でした。



質問9: あなたの年齢を教えてください。

30代～40代の方が約80%と、子育て真最中の保護者様にご回答いただきました。



質問10: お住まいの地域を教えてください。

都道府県	人数	都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	221	石川県	26	岡山県	3
青森県	188	福井県	2	広島県	125
岩手県	182	山梨県	51	山口県	142
宮城県	323	長野県	17	徳島県	214
秋田県	19	岐阜県	39	香川県	15
山形県	25	静岡県	420	愛媛県	338
福島県	282	愛知県	376	高知県	0
茨城県	1,101	三重県	526	福岡県	19
栃木県	120	滋賀県	121	佐賀県	125
群馬県	4	京都府	40	長崎県	10
埼玉県	725	大阪府	224	熊本県	43
千葉県	1,990	兵庫県	111	大分県	0
東京都	1,230	奈良県	153	宮崎県	315
神奈川県	3,414	和歌山県	27	鹿児島県	84
新潟県	83	鳥取県	229	沖縄県	41
富山県	5	島根県	57	<b>合計</b>	<b>13805</b>

## ～まちcomiリサーチ: 寄付金報告～

まちcomiリサーチでは【回答いただいた人数×1円】を各ボランティア団体やNPO法人へ寄付させていただいております。今回の皆様のご協力による寄付額と、現在までの合計額をご報告させていただきます。

第43回リサーチはご回答いただいた人数×1円をまちcomiから「[認定NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク オレンジリボン事務局](#)」へ寄付します。

今回は、オレンジリボン運動を通して子ども虐待の現状を伝え、多くの方に子ども虐待の問題に関心を持っていただき、市民のネットワークにより、虐待のない社会を築くことを目指して活動されている、「NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク オレンジリボン事務局」へ微力ながらご支援させていただきます。

=[児童相談所全国共通ダイヤル](#)=

0570-064-000

- 今回の寄付額: 13,805円
- 今回までの合計額: 738,673円
- 今回の寄付先: [認定NPO法人 児童虐待防止全国ネットワーク オレンジリボン事務局](#)

### ◆ 今までに寄付をさせていただいた施設

- ・認定NPO法人 児童虐待防止全国ネットワーク オレンジリボン事務局
- ・NPO法人 チャイルドライン支援センター
- ・国際援助団体(NGO) セーブ・ザ・チルドレン